

はり師きゅう師国家試験対策 できるポとでる問【下巻】
初版第1刷（2020年1月27日発行）正誤表

	誤	正
p11 問41 解答	○	×：相侮 → 相克
p14 問13	化成	化生
p14 問13と14	問13 ×：作用ではなく運動を表す 問14 ○	問13 ○ 問14 ×：作用ではなく運動を表す
p16 下から5つ目	「すべての血は肺に集めてられてから」	「すべての血は肺に集められてから」
p18 一番最後	女子胞は(胞宮)とも呼ばれは、	女子胞は(胞宮)とも呼ばれ、
p19 問18	○	×：伝化の腑とは胆を除いた五腑。
p20 問40	化成	化生
p23 問17	患者	寒邪
p27 上から5つ目の1行目	(湿痰)	(痰湿)
p27 上から9つ目の3行目	湿痰	痰湿
p28 上から8つ目の2行目	口腔腎	口腔、腎
p29 問7	動気	動悸
p30 問28	淡白舌である。	淡白舌になる。
p30 問33	納期	納気
p32 六経病証の欄	六経病証	六経弁証
p34 問2の解答	経脈病証→足陽明胃経	手陽明大腸経→足陽明胃経
p34 問5の1行目	手掌のほてりがり、	手掌のほてりがあり、
p34 問10	督脈	帶脈
p34 問10の解答	×：督脈→任脈	×：帶脈→任脈、衝脈、督脈
p34 問12と13の問題文の頭に「六経弁証において」を追加		
p37 腹診の欄の2行目	(動気)	(動悸)
p43 十二刺 陰刺の欄	太谿	太溪
p43 鍼法の補瀉の欄	誤	除疾 徐々に刺入して(徐々)に抜鍼する。 速く刺入して(速)く抜鍼する。
	正	除疾 徐々に刺入して(疾)く抜鍼する。 疾く刺入して(徐々)に抜鍼する。
p45 問12の1行目	揚刺	斉刺
p45 問14	除疾の瀉法では、速刺速抜で刺鍼する。	徐疾の瀉法では、速刺徐抜で刺鍼する。
p45 問18	足三里に	足三里穴に

	誤	正
p45 問20	方法	補法
p51 問19の2行目	荻なす	補う
p51 問24 解説	「同じ疾病であっても患者の体質や原因の違いによって異なる証が出現する。」	
p52 風熱による頭痛(2行目)	主症状は頭痛(脹痛、割れそうに痛む)の「脹痛」を削除	
p55 上から3つ目の1行目	(清瀉肝火)	(清肝瀉火)
p60 上から6つ目の1行目	(清泄肝胆)	(清瀉肝胆)
p89 問24	頭が盆や資するような	頭がぼんやりするような
p99 問23の解説	「腎虚によるもの。」を削除	
p100 問11	満潮性	難聴性
p101 問14	障碍	障害
p135 上から4つ目の2行目	(尾翼外方)	(鼻翼外方)
p137 問9	(尾翼外方)	(鼻翼外方)
p139 表の「上肢」欄	(曲折)	(曲沢)
p182 問14 解答	×：中封 → 中都	×：中封 → 太衝
p194 スリオロシ形の欄	鍼体の根部より	鍼体の途中より
p194 ノゲ形の欄	(約1.5)mm	(約1.5)cm
p196 問7の解説	鍼根から細くなる。	鍼体の途中から順次細くなる。
p197 打鍼法の欄1行目	(御園意斎)	(御菌意斎)
p197 打鍼法の欄3行目	(鍼道の秘訣集)	(鍼道秘訣集)
p199 問2	御園意斎	御菌意斎
p199 問8の解説	文章は間歇術	文章は置鍼術
p203 問8	問題の文頭に「新生児の」を追記	
p209 触覚の伝導路の欄	(後索路－内側毛帯系)	(後索－内側毛帯路)
p216 圧発汗反射の欄の3行目	脊髄文節	脊髄分節
p221 粗悪艾の欄	(間接灸)	(間接灸)
p224 WHOのガイドラインの欄	全文削除	
p226 1行目の見出し	法の過誤と副作用	灸療法の過誤と副作用
p226(灸あたり)の欄3行目	(施灸総数)	(施灸壮数)